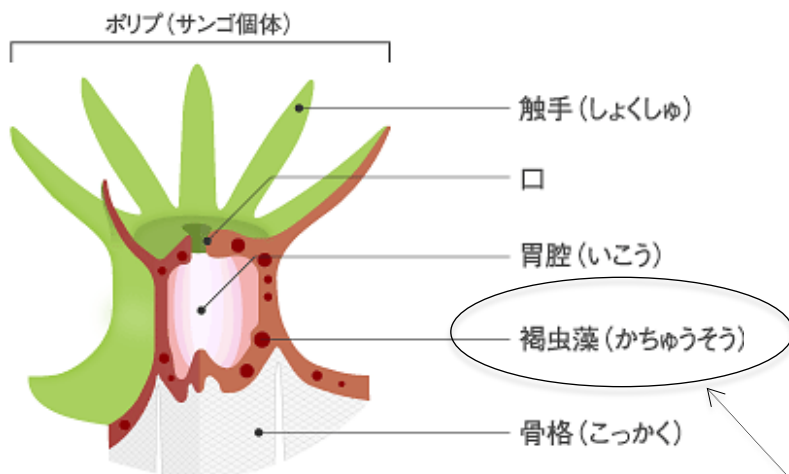


皆さんこんにちは！SSH 文系チームです。冬至も過ぎ、だんだんと冷え込みが厳しくなってきましたね。今号は横山と細野が担当します。よろしくお願いします。さて、今回は私たち二年生が修学旅行で訪ねた沖縄県の生態系についてです。

最初に **サンゴ礁** について解説します。

サンゴは植物のように思われがちですが実は動物です。クラゲやイソギンチャクの仲間に分類される刺胞動物の一種で、触手などに毒針を持っています。腔腸動物ともいわれ、食べ物と排泄物が同じ口から出入りする体の構造となっています。また、他の腔腸動物とは異なる性質として、ポリプと呼ばれる個体が分裂して群体をつくる特徴があり、ひとつの群体には数百～数万の個体（クローン）が集まっています。



※左のようなポリプと呼ばれる個体が集まってサンゴを形成しています。

ひとことでサンゴといっても、世界には約 800 種類ものサンゴが存在するそうです。このうち沖縄には、約 200 種のサンゴが確認されており、世界的にもサンゴの多い海域といわれています。

サンゴは、動物でありながら植物と同じように二酸化炭素を吸収し、酸素をつくりだす働きをしています。これはサンゴ自体の働きではなく、ポリプ内に共生する**褐虫藻**といわれる藻類の働きによるものです。サンゴの二酸化炭素吸収率は、1 m<sup>2</sup>あたり 4.3kg/年といわれ、光合成による有機物の蓄積量は 1k m<sup>2</sup>あたり 150t にもなります。海洋面積は 3.6×10<sup>8</sup>k m<sup>2</sup>です。ぜひ計算してみてください。これはなんと陸上の植物よりも多くの働きをするのです。また、サンゴには海を浄化する働きや天然の防波堤としての役割、他の生物への影響など、海中だけではなく地球にとって大変大きな役割を果たしています。

サンゴは、水温の上昇や紫外線の強弱により生存できなくなるほど繊細な生き物です。水温が上昇したり、水質が悪くなったりすると、褐虫藻がサンゴから放出されてしまい、**白化**が起こりサンゴが死滅します。そんなサンゴに一番大きな影響を与えているのは私たち人間です。生活排水による水質の汚染をはじめ、開発による赤土の流出、埋め立て、ゴミの放棄、釣りによる被害などなど・・・人間がこれまでどれだけのサンゴを殺してきたかは、想像を絶します。温室効果ガスの削減のためにも私たちに何ができるのか、改めて考えるべきです。

ところで沖縄県といえば…そう、ハブです。次は **ハブの毒** について紹介します。

ハブの毒牙の長さは、平均 1.5cm で、長いもので 2.5cm になります。毒牙は、注射針と同じような構造になっています。目のうしろの毒腺で毒がつくられて、牙の先から毒が流れ出ます。ハブの毒は、タンパク質をとかす物質で、血管組織を破壊していきます(出血毒)。だから咬まれると、循環障害によりひどい場合には死に至ります。

沖縄県では、ハブの活動が盛んな5、6月に「ハブ咬症注意報」、そして10、11月を「ハブ咬症防止運動月間」として県民に注意を呼びかけています。しかしハブは鶏肉のような味でとてもおいしいそうです。沖縄県を訪ねる機会があったら皆さん是非挑戦してみてください。

S S N

皆さんこんにちは！「SSN（スーパーサイエンスニュース）」のコーナーです。

第三回目は…

## 沖縄科学技術大学院大学について紹介します。

そもそも大学院大学とは大学院を中心とした大学のことです。沖縄科学技術大学院大学(OIST)は5年一貫制の博士課程を置く大学院大学で、教員と学生の半数以上を外国人とし、教育と研究は全て英語で行います。OISTの教育研究活動は学際的で先端的なものです。

**世界最高水準 (Best in the World)、柔軟性 (Flexible)、国際性 (International)、世界的連携 (Global Networking)、産学連携 (Collaboration with Industry) の5つを基本コンセプト**としています。1名の教員に対して2名の学生という比率のもと、学生はトップクラスの教員による懇切な指導を受け、博士号取得を目指すそうです。

理系のみなさんは進学先の一つとしてぜひ目指してみたいはいかがでしょうか！！



沖縄の碧い海に隣接する素敵なキャンパスです！